

私が日々生活していく中で人とのふれあいで感じたことがあります。それは、中学 3 年生の時、左足に前十字靭帯損傷というケガを負った時のことです。

中学 3 年の秋、体育祭の大縄跳びの練習で左足をひっかけて転び、けがを負いました。転んだ後はとっさに動けずに座り込んでいると友人が肩を貸し、助けてくれました。その友人と私は今までほとんど交流したことはありませんでした。そんな友人のとっさの行動にとっても感銘を受けたのを覚えています。その日から私は、十分に動けなくなり歩くこともままならないようになってしまいました。けがを負い、松葉杖を使って生活する中で私は感じたことがあります。それは、それまで気づかなかった人の福祉の心です。

初めて松葉杖で登校した日、松葉杖で階段を上ろうとしていた私は慣れない松葉杖でスムーズに上がることができず、途方に暮れていました。すると、私より早く登校していたクラスメートの 2 人が当たり前のように私の荷物を持ってくれたのです。その 2 人はその日だけでなく、毎日わざわざ私の為に荷物を持ちに来てくれるようになりました。その他にも、隣の席の男子は私が席に座りにくいからと言って席を交換してくれたり、先生は左足が少しでも楽になるようにとお菓子の缶で足の置場を作ってくれたりしました。いつもは全然関わりのない友人達が私を見かけると皆、手を差し伸べてくれました。こんなにも私は人の温かさに包まれているのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。けがをしたことはとても不運で痛くて最悪だと思うこともありました。しかし、けがをしたことでいつもの生活で気づくことのできなかった、気づこうともしなかった人とのふれあいから皆が持つ福祉の心を身近に感じる事が出来ました。普段は分からないけれど、福祉の心は皆の中にあるものなんだと実感しました。

私には将来の夢があります。それは人との触れ合いの中から他者を助け、援助できる仕事に就くことです。中学生だった私には人からの助けがどんなにありがたくて心が温かくなることを肌で感じました。そのような福祉の心がもっと日常生活の中で当たり前になるように、将来は人を助けることで私が周りの人からもらった温かさを返していけるよう努めていきたいです。